

令和4年度 第1回

尼崎市人権文化いきづくまちづくり推進会議 会議録（要旨）

□ 日時 : 令和4年5月19日（木）政策推進会議終了後（10時～11時）

□ 開催方法 : zoom を用いた web 会議

座 長 : これより、令和4年度人権文化いきづくまちづくり推進会議を開会する。  
ではまず事務局から説明して欲しい。

事務局 : ——資料に基づき説明——

委 員 : 「出口」と「プロセス（手段）」が混ざっていると思った。良いか悪いかは別として。例えば、展開方向1－方向性(1)の視点⑥「市の各部局や地域住民・団体と一緒に作り上げる」は手段だ。

座 長 : 着眼点が妥当かとか、過不足があるのではというのは、全体の取組内容やエピソードと一体だと思う。全体を報告して欲しいが全部を読んだら終わらない。もう1つ迷うのが、網掛け（見出し）をつけている。1つの事業に複数の視点が含まれているのでこういう書き方になっているが、場合によっては視点ごとに振りかえることもできる。そこはまだ悩むところだが。施策評価シートではかなりスペースが限られるため、何を重視して振り返りをするのか、特に新しい計画の推進において、マイノリティ特権に充分留意していくとか、限られた人の学習ではなく全ての人が学べる体制づくりか、新しく力点をおく着眼点というか、そういったところにフォーカスした方が良い。

委 員 : 「視点」をどう使うかが整理できていれば、出口と手段が混ざっていても全然問題ないと思う。

座 長 : この視点は、私達が人権の取組を進めるにあたり重視したい着眼点なので、着眼点をもとに整理すると同じ事業がたくさん出てくるのか。今は視点ごとに整理するのが良い感じがした。事業のなかで他の視点も含んでいると括弧書きはできると思う。例えば展開方向3－視点3「マジョリティ特権への気づきにつながる」で考えてみるか。

あと、皆この資料を読んでいるか。多分読めていないと思うので、読める分量にするのが目標だ。

エピソードを全部取り上げる時間がないので、それぞれの展開方向ごとの課題と今後の方向性を事務局から説明して欲しい。

事務局 : ——資料に基づき、展開方向ごとの課題と今後の方向性を説明——

委 員 : 「今後の取組・方向性」において、例えばこの視点からの取組が弱いので、今後はよりその視点を意識していくとか、この視点に基づく取組をより強化するなどの記述をすることで、視点による分析が活用されることになるのではないか。

委 員 : 「出口」として何を目指しているのか。企画していく上で意識しておきたい「手段」があることを、我々が今後、事業企画していくうえでチェックして

いく「視点」として整理できればよいと思う。そう考えたときに、現時点では

- ・アウトプット、アウトカム上の「視点」
- ・プロセス上の「視点」

として書き分けて、それぞれに過不足がないかチェックできればよいのではないかと思った。

座 長： もう一度、事務局と調整してシートの組替を行うので、再度推進会議を開催したい。どこかの政策推進会議のぶらさがりになると思うが、それにあってやはり事業を視点ごとに分析してみたいと思っている。

各委員にはそれにあたっての意見が欲しい。特に展開方向2において、各局の取組の中で合理的配慮やギャップを埋める責務を果たすといった観点で充実を図った取組があり、各局の施策評価シートに書くスペースが無い場合には、事務局へ伝えてほしい。(施策02で書いて欲しいという意見があれば)

例えば、「防災」において、外国人向けに充実を図る必要があると言っているが、寝屋川市では、「難病の人は福祉避難所にも入院できないと思う」と答えた人が多くいるため、そういった人が臨時入院した時のサポートを市がするというニュースを聞いた。そこで、例えばだが、本市ではリュウマチの人が入院する際にそのような配慮のある取組を書いてもいい。それぞれの施策で書ききれないところは、スペースのある方に詳しく書いてそちらを見て、という施策評価にしたいと思っている。そのため、委員各位は自局の取組で記載がなかったり、詳しく見て欲しいといったりするものがないか確認してほしい。

展開方向2-2「差別の防止と偏見の解消」について、ジェンダーやハンセン病、ウクライナ、ヘイトスピーチをあげているが、やはり新型コロナウイルスにかかるワクチン接種とマスク着用について、現在意見や価値観が割れてきている。今日のまちづくり提案箱にも、市立幼稚園からマスクについてのお知らせが配られ、マスクをつけて下さいという協力依頼が書かれていたそうだが、提案者は恐らくマスクが不要と考えており、こどもの教育にマスクが必要かどうか異論ありというメールであった。例えば、ワクチンが打てない、打たない人に対しての偏見など記載してはどうなのか。正解は無いが、テーマとして抜けているのはそれで良いのかという思いがある。日々その悩みに直面しているのは保健や福祉、幼稚園などの現場で悩みがあると思うので、主体的に書いてもらいたい。そこはまた個別にお願いする。

展開方向3の教育については、個別に学校と昨日打ち合わせをしたが、着眼点から振り返るとすると相当教育と打ち合わせをしないと書けないと思う。また教育と打ち合わせする。

展開方向4「市職員・教育について、課題と方向性」について事務局から説明を。

事務局：——資料に基づき、展開方向4の課題と方向性について説明——

- 座長：課題として『「マジョリティ特権」という視点を知り、自らの「特権」に気づくことが重要である。』とあり、つまりこの取組をもっと強化しないといけないという課題を書いているが、それは視点に入っている。【視点②】「公権力を行使する自らの立場を自覚しマジョリティ特権への気づきを得る」。では、この視点からどういうふうに取り組ができたかできてないかこのシートを整理して、もっとこういう取組をしないといけないと振り返る必要があると思う。
- 障害者施策のパートがあるが、その中で、合理的配慮の概念そのものを知らない職員をゼロにしようという指標がある。(総務局所管・障害者活躍推進計画)市職員へのアンケートの結果、知っている職員が7～8割で、2割以上の職員は知らないと答えている。そういった指標も市職員のチェック項目のひとつだと思う。「【特定職業従事者等】」は地域包括支援センターなどや民生児童委員などについて書いている。私達市職員も指標が実は別の施策で設定されており、100%まで足りなければもう一息だと思う。
- ダイバーシティ推進課が全部を網羅できないのは当たり前だと思うので、この人権文化いきづくまちづくり推進会議において、各局よりそれぞれの取組で苦戦しているものがあるためもっと強化するために全庁的に協力してほしい、ということを書いて欲しい。この会議ではそのような情報を共有して最終的に事務局において取りまとめる。事務局は全知全能ではないので、各委員はどんどん意見を出して欲しい。
- 今日は1回目なのでシートの改善を試みるが、この人権文化いきづくまちづくり推進会議を今後どんな風に使っていくのかを本日委員各位と共有したため、もう一度オンラインにて推進会議を開催させて欲しい。何か意見はあるか。
- 委員：例えば視点ごとで重複感があったり、方向性の下に視点がぶら下がっていたり、シートによって視点があるのと無いのがあったりする。例えば展開方向1と2の視点では似たような項目がある。視点1の「知り合える」と視点2「新しい出会い」は言葉に重複感があり分かり辛い。課題目的があって視点があるとしたら、もう少し視点ごとに濃淡をはっきりした方がよいと思う。
- 座長：視点についても集約して重複感のないものとする。それで全てではないとしても、私達が優先すべき柱がはっきり出るように、人権審議会よりアドバイスをもらったり(審議会と)意見交換したりできたらと思う。
- 委員：「視点」と「事業」は「1対1」ではないことが多いと思われるので、事業ごとに(視点の)「星取表」のように視点をチェックする形の方がよいと思う。今回のような総括表にどう表現するかは検討が必要だが。
- 座長：まさにそのとおりだ。私達は多面的な目的をもって一つの事業をやる。多面的に評価するというところにチャレンジしているので、星取表みたいにするか、工夫がいる。まさに生涯、学習で同じことが起きており、シートを組み替える中で議論したいと思う。
- 事務局：今の意見について、1つ目は、視点ごとに取組を整理するという事、2つ

目は、視点と事業が1対1ではないということ。2つ目については、特に展開方向1に表れており、このシートでは、事業ごとに複数のエピソードがあるため、視点の「星取表」のように整理しているが、(これまでの議論を踏まえ)大きく視点を変えないといけないと思っており、事務局としては、委員各位がどちらの方がより進捗を図るうえで効果的なのか悩む。

座長：それについては視点から整理すべきだと思う。なぜなら、このシートでは何が課題で何が良い事例か、この着眼点に対してこれが良い事例だから横展開しようというのがどれか分からない。そのため視点から組み替えるべきだということに迷いはない。そのため作業時間をもらおう。

事務局：承知した。

座長：ひとつの事業に複数の着眼点に対応しているのはもちろんある。それはフォローの仕方を考える。そういった形に組み替えた時に、私達が視点を重視しているにも関わらず、有益な手が打てていないとか、やっちはいるがどうも効果が不十分だ、ということが分かれば皆で知恵を絞っていく。また、ある局の取組がとても良いものであった時に他局へ横展開していくといったことが見えるシートになるようにチャレンジする。

この流れで、教育のパートについても、教育にお願いしたいと思っている。熟度の低い会議であったと思うが、視点の共有ができたと思う。また時間をいただいてもう一度議論したい。

委員：既に星取表の整理がなされており、失礼した。全ての事業で星取表ができていけば、「視点側」からのソートができるが、300超の事業に星取表を付ける必要があるが。

座長：全ての事業に星取表があれば本当は良いが。(現実的ではない)委員各位においても自局が所管する事業について、人権の視点から見直すということを、この推進会議で意識してほしい。例えば、自局の施策体系上の政策目的に参画できない、排除されてしまう人がいるような条件となっていないかなどである。この人権文化いきづくまちづくり推進会議において、そういう視点で事業展開のチェックとしてもらいたい。今年から新たな試みで進めているので、試行錯誤になるが、引き続き協力をお願いしたい。

以上をもって人権文化いきづくまちづくり推進会議を終了する。

以上